

令和 2 年度の路線価が発表されました

路線価は『1 月 1 日時点』の地価などを基に国税庁が毎年公表しています。新型コロナウイルスの感染拡大前の調査のため、実態と乖離していることはメディアでも報道されている通りです。

昨年度の発表では、

- 市内の「最高路線価格の上昇は27年ぶり。」
- 「インバウンド(訪日外国人)増加によるホテル等への投資意欲の向上」
- 訪日客の増加を期待して周辺地域の「ホテル需要は根強く、上昇傾向」

という景気の良さそうな言葉が並べられていますが、一転・・・

今年度では「先行きの不透明感」が示唆されております。

たった一年で上昇の期待感は一気になくなりました。。

香川県全体でみると、平均で前年比 0.3% 下落、下落は **28 年連続**です。四国全体でみても、同様に 28 年連続下落で、平均で前年比 0.5% 下落しており、人口減による需要の現状が浮き彫りになっております。

実務においては、香川県の感染者ピークであった 3・4 月頃から比べ、物件のご案内数は戻ってきましたが、現在関東周辺では第 2 波の警戒や対応に追われており、先行きが見えない不安があります。

土地の価格にはいわゆる定価というものは存在せず、様々な要素によりで価格が設定されているため、長い将来の実勢価格を把握するのは簡単ではありません。

ご所有の不動産の特性を見極め、また、ご所有者様のご年齢や生活環境等を総合的に判断し、運用の方法を決定する必要があります。そのお手伝いを

「あなぶき不動産流通」に、お任せ頂ければ幸いです。

不動産の市況は待ったなしの状況ですが、まずは皆様のご健康を優先して頂き、私どもにできることを精一杯取り組ませて頂ければと思います。

以上